

森りょうじりポート。(52号)

～ 21世紀の地域像を目指して ～

4,508票の重みを感じ、再スタート。

身に余るほどの票(期待)をいただき、4年ぶりに市議会の議席をいただきました。浪人中(4年間)の様々な経験は、これからの政治活動において非常に役立つものだと感じています。「初心」「現場」の2つを心に留めて2期目の議会活動をスタートさせました。

また、議会内では正常な議会運営を行うための役割と同時に議会改革を進める議会運営委員会副委員長に就任。その他、都市建設委員会と広報広聴特別委員会に所属することになりました。

6月定例会の一般質問特集(裏面)

5月の臨時議会を経て開催された第2回定例会(6/15 7/5)、私自身も気持ち新たに市政に関する一般質問を行いました。(質問2点は裏面で特集。その他、江戸川台駅西口駅前整備・グリーンバスについて質問)詳しい質問内容や執行部の答弁内容、議案採決結果は議会だよりや議会録画をご覧ください。

原発事故・放射能問題の対応について

大震災後、原発事故・放射能問題が連日報道されていることもあり、多くの皆様から不安や相談の声をいただいております。自治体の権限やスキルから出来ることは限られる面もありますが、市議会としては近隣市初の特設委員会設置を見据えた協議会の設置など出来る範囲の対策には鋭意取り組んでいます。もちろん過去にも要望書を提出しましたが、これまで以上に行政などへの対応・対策の強化も提言していきます。

1976年6月12日流山生まれ(35歳)

サラリーマン家庭(父はNTT)で育つ

流山市立新川小、流山市立北部中卒業

日本大学第一高校、武蔵大学経済学部卒業

2000年4月 大成建設株式会社に入社

2003年4月 流山市議会議員に初当選(一期目)

2007年4月 千葉県議会選挙に挑戦(次点)

2007年6月 シンクタンク東京財団政策研究員(2年間)

世界や日本の地方政治・地方自治を研究

2011年4月 流山市議会議員当選(二期目)

市政史上の最高得票4,508票をいただきトップ当選

政治理念はケネディ大統領の「国が何をしてくれるかではなく、自分が国に何が出来るか」。

趣味:自己啓発(読書など)・ノコミュニケーション・駅頭

体型:身長159.5cm・体重56.0kg

後援会事務所:流山市中野久木559-2

討議資料

森が動く。

森りょうじ



流山市議会議員

お知らせ(information)

選挙後と言うことで、本来であればご支持を頂いた皆様へご挨拶をさせて頂きたいところですが、公職選挙法により、当選に関する挨拶を目的とする行為が禁止されています。政治家は法律を作る立場から、遵守することも当然の責務ですので、ご理解をお願い申し上げます。

市長の政治姿勢について

今回の市長選挙は大震災の影響もあってか投票率は過去最低の 50.36%。我々政治家は選挙における当落選とは別に、“投票率”というものを重視していかなければならないと思います。(過去の投票率：昭和 54 年 74.47%・平成 3 年 63.23%・平成 11 年 57.32%)

とくに最近の流山市は、人口の増加に象徴されるように街の発展が著しい地域。全国の自治体では人口減少や少子高齢化の問題に直面する現状があるのに比べて、理想的な街づくりが進んでいると言えます。そのような中で行われた 4 月の選挙結果からは様々な分析が出来ますので、街づくりの発展と投票率の下落に対して、行政のリーダーとしての基本的な見解を質しました。

市長は『投票率は有権者の皆さんが市政に参加したいという意識の表れ』との見解を示しましたが、私も市政への参加意欲の偏差値的なものとして“投票率”を捉えていくべきだと考えています。

ただし前述したように近年は、市政参加への第一歩となる選挙の投票離れが目立ってきております。この現実を政治を担う者として深く反省しておりますが、同時に、どのように改善していくかを、市長、議会だけではなく住民もしっかりと向き合わなければならない問題であると言えます。

市長答弁では、「住民が自分の街として市政に参加したいと思っていただけるよう、愛着、親近感、誇りを感じる街づくりになっているかを重視していきたい」、あわせて「住民自身が自分の参加の役割・機能を感じて頂くことが重要だ」との答弁でした。

今回の震災は地域や人との繋がりの大切さを見直す機会にもなりました。改めて皆さんと一緒に考えたいテーマであります。

WebSite「森りようじ」を検索！
また Twitter も更新中！

教育行政について

流山市教育行政のトップにあたる教育長が後田氏に変わりました。少子高齢化・国際化社会・地方分権時代の本格化など教育を取り巻く環境が大きく変わっている中での教育長就任は非常に重要な責務です。同氏は学校教育部長や市内小学校長などの現場経験が豊富であり、これからの教育行政を司る立場として、それらの経験をどのように生かし、独自性のある教育を実現していくのかを問いただきました。

答弁では従来の“真心教育の継承”、「学力・気力・体力」を柱にすえた教育を推進するほか、地方分権社会の中で、教育委員会の中立性を維持しながら、地域の実情に応じた教育を実現していきたいとのことでした。また、今回の震災経験を生かし、“生きる力”を育むことを重視したいとのことでした。

「生きる力」とは、新学習指導要領に掲載されている言葉です。

また今年も、子どもの成長に大きな影響を与える(中学校)教科書の選定採択が行われる年でもあります。選定プロセスは、各地域の委員会が文部科学省の検定を合格した複数冊から相応しいモノを選ぶ流れです。

教科書の内容に関する点については様々な議論がありますが、私の質問の切り口としては、国際化に向けた小学校からの英語教育が本格化する今こそ、児童生徒がしっかりと国家観や歴史観をもつための歴史や公民の教科が重要になってくると感じており、それに相応しい教科書を選ぶ必要があるとの内容です。前述の通り「家族」や「地域」の大切さが見直される今日、このあたりの内容をしっかりと表記している教科書が望まれますが、該当するような教科書は非常に限定的です。教育長も同様の見解でした。

ボランティアスタッフ募集！(ご意見含め)
TEL.04-7155-3236
ryoji612@peach.ocn.ne.jp まで